

昨年、12月22日に第48代横須賀地方総監を拝命しました酒井です。横須賀水交會の皆様には、緊急登庁支援時の援助活動をはじめ、観桜会等の横須賀地方隊の各種行事において、常日頃から温かな御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

歴史と伝統あるこの横須賀での勤務は、護衛艦隊司令部幕僚長以来、約4年半ぶりとなります。昭和58年の防衛大学校入校以来、横須賀で長い時間を過ごしてまいりましたが、そのほと



海将 酒井 良

【横須賀地方総監挨拶】



んどを艦艇部隊で勤務してきたため、横須賀の街並みをゆつくりと楽しめていなかった様に思っています。新型コロナウイルスの影響により、皆様に御挨拶ができていない上、例年、横須賀地方隊で主催してきた各種行事について、中止又は規模縮小をせざるを得ない状況であり、日頃お世話になっている皆様との親睦の機会が失われていることは、誠に残念であります。

前職は、呉地方総監ですが、横須賀地方隊は、在日米海軍との連携、砕氷艦「しらせ」による南極観測支援といった他地方隊にはない任務を有するほか、警備区である1都15県には、我が国の政治、経済及び各自衛隊、在日米軍の中枢が所在しており、不測事態への対処など大きな使命を担っています。我々を取り巻く安全保障環境は、依然として

発行 令和3年4月19日(月)
編集 横須賀水交會事務局

厳しく、時には歯を食いしばりながら、苦難に立ち向かう必要があり、それゆえに日頃から「潮氣」を忘れず、実直かつメリハリをつけて、与えられた任務に取り組んでいるところです。また、横須賀警備区では、近年、繰り返される台風や豪雨に伴う災害に加えて、首都直下、東海、東南海地震など大規模災害への備えも重視しており、各自治体との防災訓練などを通じ災害対処能力の維持向上を図っております。

一方、任務の多様化、長期化、海外派遣の常態化が進む海上自衛隊の活動を支えるのは隊員であり、人的基盤の維持・確保における横須賀地方隊の役割は極めて大きいものと認識しております。このため、隊員の「ワークライフバランス」をはじめとする様々な施策を通じて仕事と生活の調和を実現し、安心して任務に邁進できる勤務環境の構築に努めております。苦境にある時

ほど海軍伝統の「ユーモアの精神」を忘れず、常に心に余裕をもって、横須賀地方隊の任務遂行に全力で取り組む所存ですので今後とも変わらぬ御指導御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

結びに、横須賀水交會の益々の御発展と会員の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

横須賀水交會主要行事予定

令和3年10月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會HP (<http://y-saikoukai.daa.jp/>)で御確認下さい。

- 1 海軍の碑記念行事
実施の方向で検討中です。
- 2 3年度総会・講演会
6月4日(金)で検討中、5月末決定予定です。
- 3 靖国神社月例参拝
6月は中止です。
- 4 横須賀夏季防衛講座
8月21日(土)開催で検討中です。

【会長挨拶】

横須賀水交會会長 加藤 保



新型コロナウイルス感染症により重苦しい雰囲気の中の世の中で、変わらぬ美しく咲き誇る桜の花に心を癒やされる日々ですが、会員の皆様には、健やかにお過ごしのことと推察致します。

新型コロナウイルス感染症対策で、この春の観桜会をはじめ横須賀水交會に関連する主な行事は取り止めとなっておりますが、横須賀水交會は、横須賀地方総監部及び関係団体等と連絡を密にして、常務幹事会を中心にして、諸行事の準備や新聞発行など日々の活動を続けています。

会員の皆様に係わる今後の諸行事は、新型コロナウイルス感染症やワクチン接種の進捗状況にもよりますが、関係各部との連絡を密に

して、可能な限り実施していきたいと考えております。この夏に計画されている夏期防衛講座も横須賀水交會が幹事として開催の方向で準備を進めております。また毎年実施している海上自衛隊部隊研修も実施できればと考えております。いずれにしても、コロナワクチン接種が順調に進捗し、効果的な新型コロナウイルス感染症対策と相まって、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終焉を期待したいものです。

今回のコロナ騒動は、日本の危機管理態勢の問題点を提起しています。

その第一は、危機管理に関する憲法を含めた包括的な法体系がないことです。さきの原発事故にみられるように、危機発生後、場当たり的に特別措置法制定で対応するため、必然的に危機管理が事後対応となり、次の新しい危機発生時に迅速に対応できない結果となっております。

第二は、首相には緊急事態宣言発令の権限はありますが、飲食店等に時短・休業を要請する権限は

なく、その権限を有する知事を指揮する権限は首相にはないという法律上の問題です。結果として、国民から観ているとちぐはぐな危機管理対策と写つてしまう。

また罰則を新設する感染症法改正がなされましたが、これは憲法との整合性にもかかわる私権制限であり、「安全と安心」の価値と「自由と人権」の価値とのバランスの問題であり、コロナ感染症危機管理対策として論議されるものはなく、もつと冷静に落ち着いて論議されるべき問題であると考えます。

このような情勢下でも、海上自衛隊は整齊と任務を遂行していますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。砕氷艦「しらせ」は、出国行事後横須賀を出港しましたが、乗員がコロナに感染していないことを確認するため横須賀港外で2週間の待機を余儀なくされ、また外国の港湾への入港が認められず、横須賀出港から無寄港で横須賀に帰ってきました。また、ソマリア沖派遣護衛艦及び練習艦隊の出入国行事に横須賀

水交會も参加しましたが、厳しい参加制限から乗員家族等による見送りはなく、一抹の寂しさを感じるものがありました。このように苦難を乗り越え任務遂行に従事する海上自衛隊の諸官に対する惜しまない支援が、横須賀水交會として、求められているとの思いを強く感じました。

さて、不要不急の外出自粛を求められて、会員の皆様には十二分な時間をお過ごしのことと思いますが、その分だけ身近な方と過ごす時間が確実に増えていると思います。その増えた時間を有効に活用して、健康管理も兼ねて、近所を散歩してみても如何ですか。歩きなれた道でも意外と新たな発見があるものです。新型コロナウイルスに負けずに、毎日を前向きに！

コロナ騒ぎも一段落し平静を取り戻した後、会員皆様のお元気な笑顔に会える日を楽しみしております。



【特別投稿】

『築地』海軍史跡と市場めぐり

水交會會員 齋藤 ゆみ

〈前編〉



横須賀水交會の皆様、練習艦隊帰国行事の折には度々お世話になりました。この度は寄稿させて頂き光栄です。本稿では私の愛する「築地」について語りたいと思います。

〈築地と私の出会い〉

花火が撮りたくて一眼レフ歴十六年、時々媒体にも使ってもらっています。ブログを始める際に、江戸ツ子の雰囲気だとハンドルネームは「鉄火お嬢」と名乗りました。花火オフシーズンに、海と魚が大好きなので魚市場を撮ろう、どうせならその頂

点をと、上京するたびに築地場内市場を撮り歩きました。その内お店に顔を覚えられ「ブログ？何て名前でやってんだ」「鉄火お嬢……」「……てっか？」「鉄火井の鉄火に……お嬢……」マダグロ屋の大将、腹を抱えて大笑「……鉄火ちゃん！そいつは悪いようにはできねえなあ！(笑)」すっかり親しくなった『吉富』の若様(現社長)が許可を取っては、一般は入れない近海物の競りに、度々連れて行ってくれるようになりました。メディア取材以外で、こんなに間近に競りを撮っていた個人はまずいなかった筈。



競りの開始

写真を持参すると、よく中落ちをお土産に頂きました。『吉富』は築地場内でも指折りの有名店で、昔ゴルバチョフ夫人ライサ

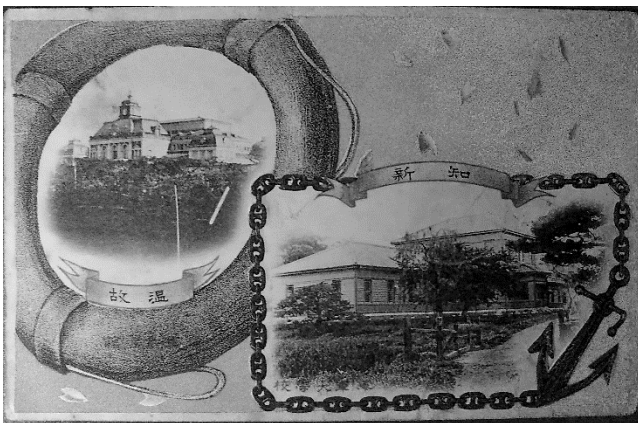
女史が見学で訪問した時は若の父上(前社長)が案内したとか。最近もノルウェー漁業大臣が訪問したり、タイ・バンコクの王族も愛顧する日本料理店にもマダグロを送っています。『吉富』が下さるマダグロは最高です。

〈海軍が先か、市場が先か〉

魚好きには天国の築地ですが、

日本における「海軍発祥の地」である事は意外と知られていません。「築地」とはまさに築かれた土地、即ち埋立地であり、十七世紀に造成され、幕末には築地一帯には尾張藩蔵屋敷、白河藩下屋敷及び浴恩園庭園、一橋家下屋敷、芸州広島藩下屋敷等がありました。一八五七年(安政4)はじめ築地南小田原町堀田家中屋敷講武所内に軍艦教授所が設けられ、一八五九年(安政6)軍艦操練所になり、一八六七年に浜御殿(浜離宮)に移された。(教授頭取は勝海舟)一八七〇年(明治3)に海軍兵学校、一八七六年(明治9)海軍兵学校となった。一八七二年(明治5)には旧浴恩庭園跡地に海軍省を設置、賜

山(しざん)に海軍大臣旗を掲揚旗山(きざん)と呼ばれた。一八八六年には秋山真之が入学(広瀬武夫は二期先輩)したが、途中に海軍兵学校が江田島に移転したため、秋山が築地にいたのは2年のみである。兵学校校舎は海軍大学校となった。(その後関東大震災で移転)『坂の上の雲』初巻の「海軍兵学校」で、受験受付に訪れた秋山真之が、兵学校の建築の威容に気圧される下りがある。



海軍大学校(右)

一八七三年(明治6)海軍病院付属学舎を設置したが一八八〇年一旦廃校、一八八二年(明治15)海軍医務局学舎として再設置、一八八九年(明治22)海軍軍医学校と改称、一九〇八年に築地に移転、一九二九年(昭和4)さらに築地5丁目に移転。元の敷地は現在の国立がん研究センターである。

一八七四年に芝山に置かれた海軍会計学舎が、名称や組織を二転三転させながら海軍主計学校として築地に移転、一九〇七年に海軍経理学校となった。築地はまさに海軍の一大拠点、海軍の街であった。

〈海軍用地から市場の街へ〉

江戸時代からの本来の「魚河岸」は日本橋であったが、一九二三年(大正12)関東大震災で壊滅し、海軍技術研究所用地に間借りしたのが築地市場の始まり。海軍も震災と拡充志向により移転していく都合に合致したのか(当時の建築技術では深いボーリングや基礎を造れず、堅牢な建築を求めて埋立地でない安定

した地盤を求めたのか)比較的すんなり用地を貸し渡し、ここに東京市設魚市場を開設、一九二七年(昭和2)にこれらの土地を取得、一九三五年(昭和10年)正式に東京市中央卸売市場が開場した。しかし間もなく日中戦争、のちに太平洋戦争が始まり、東京大空襲では市場も被害を被った。敗戦により経理学校や病院は接収され、兵舎や病院、娯楽施設、クリーニング工場等が置かれたが、接収解除により市場の敷地となった。

戦後の高度成長期とバブル期、グルメブームで築地は、東京のみならず全国的美食を支える市場として注目され、来日する外国人観光客の東京観光の人気スポットとして有名になり、東京、日本の築地市場は、世界に名だたる「SUSHI」でもあった。

そんな築地を揺るがす事件もあった。ビキニ環礁で死の灰を浴びた第五福竜丸から被曝した高放射能のマグロが水揚げされた一九五四年(昭和29)原爆マグロ事件、また一九九五年(平成

には地下鉄サリン事件が起き、日比谷線築地駅では最大の被害が発生した。

二〇〇一年に豊洲への中央卸売市場の移転計画が決定されたが、オリンピックとからめて利権が入り組んで推進派と反対派のいざこざ、豊洲の環境問題を巡る長きに渡る騒動は、世間もよく知る所である。結局二〇一八年に移転は完了する。

(次号〔後編〕に続く)



外国人観光客の見学



勝鬨橋側から見た曾ての築地市場



築地場内市場太物競り場

【横須賀散歩】

火猿

横須賀散歩(4) ..

「国威顕彰」記念塔

JR横須賀駅に隣接するヴェルニー公園には、幾つか石碑が並んでいます。その一つが「国威顕彰」記念塔です。昭和12(1937)年の海軍記念日に除幕され、上部には金鷄が飾られていた様です。記念塔は軍艦「高雄」の艦橋を模したもので、国際連盟脱退後の社会情勢下、世界平和を願う「八紘一宇」の石板も有ったようですが、金鷄と共に剥がされてしまっています。真に残念です。

なお、帝国海軍終息50年の平成7(1995)年11月、記念塔の横に、全国有志の浄財により「海軍の碑」が設けられ、毎年の海軍記念日(5月27日)には、水交會が記念行事を行っています。



「国威顕彰」記念塔



「海軍の碑」

公園には、正岡子規の句碑もあります。子規は、明治21(1888)年8月に汽船で浦賀に着き、友人と共に横須賀・鎌倉に遊びました。その際に詠んだ「横須賀

や只帆檣の冬木立」という句が石碑に刻まれています。子規の句碑から海軍の碑まで、六つの石碑が並んでいます。



正岡子規 句碑



軍艦長門碑等、公園に並ぶ石碑

【参加行事等紹介】

1 派遣海賊対処行動従事

護衛艦「おおなみ」帰国行事

参加

11月23日(火)、晩秋らしい寒さの中、中東ソマリア沖アデン湾で第36次派遣海賊対処行動に従事していた護衛艦「おおなみ」(艦長 石寺 隆彦2等海佐)が約7か月の任務行動を終えて海上自衛隊横須賀基地逸見岸壁に入港、帰国しました。

令和2年4月26日同港を出港し、5月23日から10月下旬まで約5か月にわたり同海域で海賊対処に当たり、7回の護衛活動並びに延べ121日間の区域防護を行いました。

その後インド洋ベンガル湾での日米印豪共同訓練「マラバル2020」に参加しました。この年のマラバルは「自由で開かれたインド太平洋」構想の下で豪海軍が加わり、日米印と共に4か国で実施され、「おおなみ」は11月3日から6日の訓練に参加しました。共同訓練は対潜水

艦や対空戦を想定した訓練であり、海洋支配を強める中国を念頭に連携を強化しました。

本海賊対処行動は、平成21年以降継続して水上艦艇及び航空機を派遣しているものであり、横須賀所属の護衛艦が派遣されるのは、護衛艦「いかづち」に続き13隻目となります。

杉本 孝幸横須賀地方総監執行による帰国行事には、田中茂横須賀副市長、海上保安庁海上保安監代理警備救難部長、横須賀警察署長ほか各部隊指揮官、隊員など約150名が参列し横須賀水交会からも、加藤会長ほか約10名が参加しました。

石寺艦長の力強い帰国報告後、防衛大臣訓示が横須賀地方総監から読み上げられました。湯浅秀樹自衛艦隊司令官訓示では、新型コロナウイルス感染症防止のため寄港地での上陸が制限されるなど困難な状況下での任務完了を称えた上で、マラバル参加にも触れ「各国軍との強固な信頼関係の醸成に寄与してくれ」と強調されました。

海賊対処は、日本にとっても重要な海上交通路であるソマリア沖アデン湾で2000年代後半から増加した海賊行為を国際的に取り締まるための安全保障協力。09年から護衛艦や哨戒機が派遣されて他国軍と共に継続的に当たった結果、同海域での海賊等事案は11年の237件をピークに減少し、19年には0件になりました。



海賊対処は、長期間にわたる実任務であり、厳しい環境条件のもとでの緊張は計り知れないことと思います。国際的な責務を果たし、国益に寄与した指揮官及び乗員各位に対して、心から感謝申し上げます。乗組員の皆様には、短期間とは思いますが、留守を守ってください。ご家族の皆様と共に十分英気を養ってください。願います。

(石井順 幹事 記)



2 第3次派遣情報収集活動

水上部隊 護衛艦「むらさめ」 帰国行事

令和3年2月11日(木)横須賀逸見岸壁にて、第1護衛隊「むらさめ」(指揮官 平井 克英 1等海佐)の帰国行事が行われました。

護衛艦「むらさめ」(艦長 野本 直利 2等海佐以下乗員約200名)は昨年8月、第3次派遣情報収集活動水上部隊として派遣され、約5か月半の任務を終了し、148日ぶりに横須賀に帰国しました。

本情報収集活動は、昨年より、中東方面へ継続して水上艦艇及び航空機を派遣しているものであり、横須賀所属の護衛艦が派遣されるのは、1次隊として派遣された護衛艦「たかなみ」に続き、2隻目となります。

「むらさめ」は、日本関係船舶の安全確保のため、防衛省設置法の長期行動として、10月6日からオマーン湾とアラビア海北部で情報収集活動に従事しました。

新型コロナウイルスの影響により、沿岸国の寄港地では岸壁以外の上陸が認められないなど乗員の行動が制限される中で活動を続け、今年1月20日までに延べ1万2000隻の船舶を確認しました。

現地で、大湊基地(青森県むつ市)を出港した「すずなみ」に任務を引き継ぎました。

イランや中東地域では緊張状態が続いており、政府は昨年末、派遣期間を今年12月まで1年延長することを閣議決定しました。

帰国行事には岸信夫防衛相をはじめ、山崎 幸二統幕長、湯浅秀樹自衛艦隊司令官ら防衛省・自衛隊の関係者約50人が出席しました。乗員家族は新型コロナウイルス感染防止のため出席が見送られました。残念ながら横須賀水交會も参加できませんでした。

岸信夫防衛相が「インド太平洋地域の平和と安全を守るわが国の意思を形にした。大変誇りに思う」と述べました。

平井司令の帰国報告の後、表彰式が行われ、岸大臣から3次

隊に総理大臣からの特別賞状と平井司令への1級賞詞が授与されました。また、山崎統幕長から野本艦長に2級賞詞が手渡されました。(石井 順 幹事 記)



3 第62次南極地域観測協力を終了し砕氷艦「しらせ」帰国

令和3年2月22日(月)春のような気候の中、第62次南極地域観測協力を終えた砕氷艦「しらせ」(艦長1等海佐 竹内 周作)が3か月半ぶりに横須賀に帰国しました。

砕氷艦「しらせ」は令和2年11月6日に乗組員約180名と観測隊員40名を乗せ横須賀港を出港し、12月21日に昭和基地沖に接岸しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昭和基地へ往路、復路とも例年寄港しているオーストラリアを経由しない無補給での航海という形になりました。

南極では燃料や食料等の物資輸送や海洋観測支援、設備補修を行い、令和3年1月19日に帰国の途に就きました。総行動日数は約109日、南極圏での行動日数は51日間でした。

「しらせ」は午前7時50分に海上自衛隊横須賀地方総監部逸見岸壁に接岸、参加者が制限さ

れた帰国行事では、整列した乗組員約40人に対し、中山泰秀・副防衛相が「新型コロナウイルスで例年にも増して長期の艦内生活を余儀なくされるなど大変な苦労をされたとうかがった。過酷な環境下で見事に任務を完遂した」とねぎらいました。

なお、砕氷艦「しらせ」は今回、女子高生らが南極を目指す物語を描いたテレビアニメ「宇宙(そら)よりも遠い場所」とコラボレーションして情報発信しておりこの日もアニメの「いしづかあつこ」監督のメッセージを盛り込んだ動画をインターネット上に公開したそうです。



【お知らせ】

1 水交會から寄付のお願い

季刊「水交」新春号の新年ご挨拶で、理事長から水交會の活動支援の寄付をお願いしております。令和2年度の収支見積りでは、水交會の収入の約1/4を占めるクラブ事業は、前年度比約98%減となる状況です。各種補助金を申請するほか本部、各支部を挙げて経費節減に努めていただいておりますが、それだけでは不足分を補填することができないのが実情です。

この度も、終身会費を頂戴している会員を含めて全会員に振込用紙を「水交」に同封させていただきます。大変申し訳ありませんが、水交會の存続のために会員の皆様にご寄付をお願いいたします。(水交會事務局長 記)

2 横須賀水交會 全会員用

メールマガジンについて

「メールによる 会員の皆様への行事等のご案内」を行っております。つきましては、メールアドレスへの登録を希望される方は次の要領でのご登録をお願いいたします。

① 登録用アドレス
memberlist_regist@y-suikokukai.sakura.ne.jp

② 登録内容

- (例) (1) 氏名・海尾護 (2) 会員番号・0174183 (3) メールアドレス

uniomamor@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます。何かご不明な点がございましたら、登録アドレスへご一報ください。以上、よろしくお願いたします。(檜森 晃治 幹事 記)

叙勲受章者(秋の叙勲)

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

1 令和2年秋の叙勲者

- 瑞宝中綬章・半田 謙二郎 瑞宝小綬章・佐原 章友

2 危険業務従事叙勲

- 大川 郁生

雑賀 大介 寺崎 隆文

(一瀬 良文 事務局長 記)

訃報

4月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

- 井坂 光明(逝去日不明) 小林 良輝(2年11月8日) (一瀬 良文 事務局長 記)

新(編)入会員

令和2年10月~令和3年2月

次の方々を横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。(敬称略)

編入

なし

入会

- 橋田 篤廣(有志) 吉富 章雄 (有志) 田村 洋二(幹候39) 杉井 理恵(有志) 小野 節子 (部内00) 伊藤 慎吾(有志) 關 直美(有志) 山崎 敏雄(幹候26) 渡辺 智哉(有志) 横手 正剛(幹候42) 佐藤 道哉(幹

候36(85)相当)橋本 逸男 (有志) (桂 眞彦 幹事 記)

【編集後記】

コロナ禍以前のように多くの行事に関する記事を掲載できるような状況が早く来ることを編集担当としても祈念しています。(編集担当 石井)



防衛省海洋防衛部 月刊「水交」周年記念 令和3年3月3日 三菱重工株式会社